



Southeast Asia Regional Network



News Letter

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部ニュースレター

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部は、同窓会本部承認のもと2017年8月に創設されました。支部活動の一環として、東南アジア居住者のネットワークを広げる目的を掲げ2017年9月よりニュースレターを発行しています。このニュースレターが一人でも多くの同窓生に届き、ネットワークが広がっていくことを切に願っています。

VOL.8
SEPTEMBER
2019



CONTENTS

- 1. ご挨拶 - 狙え！インスタ映え！？
- 2. 懇談会報告 - タイの昨今
- 3. リレーインタビュー - トコロ変わればザ★談会 NEW
- 4. 連載コーナー - とともに感じる東南アジア

1

ご挨拶

2019年も残すところ3か月となりました。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。おかげさまで、同窓会東南アジア支部も2周年を迎えることができました。先日ベトナム在住の宇都宮大学同窓生（工学部卒）の方からニュースレター閲覧をきっかけにご連絡を頂くという嬉しい出来事がありました。ニュースレター発行2年目にして、このニュースレターが、学部や世代を超えて新たなネットワークが生み出されるきっかけになりうることを証明してくれた出来事でもあります。今後もニュースレターを通して私たちの今を発信し、新たなネットワーク構築のきっかけになるよう、活動を続けていきたいと思えます。さて、今年より年2回の発行となったニュースレターですが、内容を充実すべく、本号より新コーナーを設けました。一つのテーマに対してそれぞれの国（地域）に住むメンバーが居住地事情を語り合う場、題して「トコロ変わればザ★談会」。では本号もお楽しみください。今後ともよろしく願いたします。（大畑美優紀/国社95、院・国社00）

2

懇談会

カセサート大学交換留学生 押野君送別会開催

5月19日（日）タイのバンコクにて、カセサート大学へ交換留学していた押野拓也君の送別会を開催しました。今回は後藤先生（農学部名誉教授）、同窓生の他、同窓生のご家族も参加いただき大変楽しい会となりました。押野君は在タイ中、同窓生懇談会に積極的に足を運んでくれました。日本を離れて暮らす私たちにとって現役大学生が慕ってくれることは、何より嬉しいことです。人との繋がりを大事にする押野君は、10か月の間で沢山のことを吸収したことでしょう。タイでの出会い、経験をたまに思い出しながら、残りの大学生活を十分に満喫してください！タイから応援しています！（大宮勇樹/国社07）

帰国された押野君よりお礼のメッセージが届きました。

10か月のタイ留学を終え、宇都宮大学に戻りました。タイで活躍されている先輩方の話は僕にとって刺激的で非常に感銘を受けました。そのおかげで具体的な将来のイメージを膨らませることができたので、卒業まで有意義な学びができるよう頑張りたいと思います。先輩方、本当にありがとうございました！

押野拓也



左上より、池内さんお嬢様、橋本さん（工）、大部さんお嬢様、奥様、大部さん（工）池内さん（農）、左下より、後藤先生、押野君、大宮さん（国）

3
同窓生
Relay
Interview

Profile

當眞里絵さん

Rie Toma
Romanov

- 沖縄県出身
- チェコ共和国 13年目
- 国際文化学科 96年入学(2期生)
- 佐々木史郎研究室



大学卒業から現在までの道のりは？

私が大学を卒業した時期は就職氷河期と呼ばれている時代でした。3年生になり周りは続々と就職活動の準備を始めていましたが変わり者の私は、学生なのだからこんなに早く就職活動に時間と労力をかけたくないという考えでほとんど真剣な就職活動をせず、卒業前後に就職活動を始め、新卒ですが”中途採用”の枠にて成田空港の協力会社に就職し、成田空港にて勤務しました。毎日発着の飛行機を眺めながら海外で働きたいという気持ちを持ち続け、その後ベトナムにて日系企業での仕事を見つけ渡越。4年ほどエネルギーシユなベトナムの国、人々の勢いを感じながら貴重な日々を過ごしました。その後、仕事にてヨーロッパ各国の人々、特にチェコ大使館の方々と接することがきっかけで、それまで私にとって未知の世界だったヨーロッパに興味をもち、佐々木史郎教授に近状報告を致しましたところ、奇遇なことにその時期宇都宮大学とチェコのパツキー大学が学術協定を結んだことを知らされ、大学院にてベトナムとチェコの関係について学びたいという気持ちが湧いてきました。しかし現地に住んでみないと深い研究ができないと考え、まずは経済発展が非常に著しかったチェコ共和国にて就職、生活に潜入し様子を見ようと思っていたところ、ずるずると仕事を続けてしまい現在に至ります。プラハでは日本人を始め、世界中からの友人たちにも困まれ時間を過ごすことができ、その生活の延長にて今の伴侶と出会い、現在2歳10か月の息子と3人でプラハ生活をしています。

仕事との両立も含めて、チェコでの子育て環境は？

チェコはヨーロッパの中でも子育て環境は恵まれた方で、育児休暇3年は法律により保証されています。国から支給される育児手当も手厚く、育児休暇中手当の受給は1人の子供につき約110万円、それを2年～3年選択した期間で割った金額を毎月受給することが可能です。この金額も来年以降約40万円程UPする政策があることを最近記事で読みました。現在親になる世代の方々は兄弟姉妹が2人の方々が多く、自分達もそれぐらい、それ以上子供を産み育てたいという希望があるようで乳母車を押している父母が街中見受けられます。

育児手当を受給している間は親の勤務時間制限があり、受給している間はフルタイムでは働けない仕組みになって

います。国が金銭的に面倒見るのであなたは親として将来のある子どもを一生懸命育てなさい、ということですね。



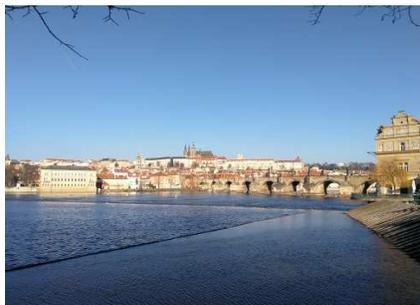
実際私立の保育園でも最低生後18か月頃からしか受け付けられない等、乳児の保育園開始受付は非常に限られています。子供が公立の学校へ入学する際は幼稚園(3歳から)～大学の学費が国によってカバーされます。給食費や教材費等は別途私費によりかかりますが学費が免除ということはとても大きいですね。

設備の整った公園が至るところにありレストランやカフェも遊び場を設けているところが多くキッズフレンドリーな場所も充実しておりとても助かります。ペピーカーでの tram やバスでの移動も周りの方が当たり前のように手を差し伸べてくれ、母子優先でスペースを確保して頂けます。

勤務先でも従業員皆お互い様、小さい子をもつ従業員に対しては当たり前のように子供との生活を優先し復帰後の勤務形態を会社とネゴします。多くの親は自分のポジションに戻り、まずは短時間で勤務に戻る場合が多くみられます。

休日の過ごし方は？

まだ息子が小さいため休日は専ら子ども中心の時間の過ごし方になります。私たちはチェコで外国人同士の家族なので週末に家族を訪ねたりすることもないので週末は夏だとサイクリングをしたり、公園、博物館へ出かけたりします。社会主義の名残だと思いますが、全ての文化的な建物、行事は無償、もしくは非常に安価に利用できありがたく感じます。公共交通機関も非常に発達しておりチェコ国内旅行もお手軽に経験できる環境にあります。典型的なチェコ人の休日の過ごし方としては、チェコ国内に点在する家族の所有する別荘(多くは



小屋のようなイメージ)に通い、庭、畑の手入れや家のメンテナンス等をしなが家族揃って自然に困られた、実にゆったりした時間を過ごします。

チェコで感じるアジアとは？

チェコは元社会主義国ということもあり、以前その政治形態に属していたアジアの国の方が主に移住しています。その中でも北ベトナムからの移民はかなりの数を占めており、アジア人=ベトナム人というのがチェコ人の最近までのアジア人概念でした。国としても2013年にはベトナム人をチェコの少数民族として認める判決も下され、ベトナムイズチェコとしてコミュニティに違和感なく溶け込んでいる彼らはとてもたくましく、そして少数民族として認めたチェコ国民の寛大さを改めて感じました。チェコの移民割合で上位4番目にしてみたらとても控えめに生活している彼らですが、持ち前の勤勉さと近隣諸国のアジアコミュニティを駆使し、チェコの至るところには彼らが経営する小さな生鮮食品と雑貨を合わせた商店があちらこちらに見られ、彼ら抜きではチェコ人の便利な生活が損なわれてしまう程の存在となっています。その他モンゴル人、中央アジア、中国人がアジア系としては多くみられますね。



今やチェコ中に広がるベトナム人がチェーン化したお店

今後の抱負も踏まえ、みなさんへメッセージを！

大学卒業から今まで非常に特殊な時の過ごし方をしている為これといって参考にもならず、気の利いたメッセージはとても難しいのですが、一つ言えるのはどんな時間の過ごし方をしても無駄はなく、大なり小なり報われる時がくるということです。全て何かしら今後の人生どこかで知識、経験が繋がりました面白い転回となっていくような気がします。世界は本当にお互い近く、狭くなりました。それだけ様々な情報に溢れており知識、経験、謙虚な気持ちがないと真実を読み解くことが非常に困難になってきました。正しい情報はパズルのように解き明かされていきます。皆さんもどうぞ可能な限り外の世界を實際自ら経験し、ジャンルを超えた様々な人々に会い、語り合うことによって正しい情報を見出し自分の成長に反映させることができればこれからのグローバルな世界を楽しく平和に過ごすことができると日々感じております。私は近々新しい世界へとチャレンジする予定でまた刺激のある日々が続きそうな予感です。



皆様こんにちは。インドネシアを拠点にアジア取材を行ってはTVで発表しております、フリーディレクター・谷澤です。今回は、東南アジアが無視することのできない、巨大な“隣人”の影響力が垣間見える話題をお届けします。



アジア取材雑記
第4回

東南アジアを襲う!? “隣人”の食欲

1枚目の写真は、ご存知“果物の王様”として名高いドリアン。強烈な匂いと甘ったるい食感が持ち味で、東南アジアで絶大な人気を誇ります。タイ東部・チャンタブリー県の果物出荷場で撮影した写真ですが、これらのドリアンは全て中国向けに輸出されていきました。いまタイには年間1000万人もの中国人観光客が押し寄せていますが、旅行先で初めて食べたドリアンの味が忘れられないのでしょうか？中国でのドリアン人気は近年爆発し、タイからの輸出が急増。農家の中には、あっという間に巨額を手にした人も出ています。



一方の2枚目。マレーシア中部のパハン州で撮影したものです。ご覧の通り、原生林が切り拓かれ、ハゲ山が目立つようになっています。ここに新たに植えられるのが、、、もうお分かりでしょうか。そう、ドリアンです。マレーシアから中国に向けたドリアンの輸出もいま急拡大中で、このような事態を招いてしまいました。付近にはトラなど希少生物も多いということで、環境団体は警鐘を鳴らしています。東南アジアが無視できない、中国13億人の食欲です。###
(谷澤壮一郎/国社02)

第8回

◆タイの昨今◆連載コラム◆



～お小遣いは必需品～

クリスチャン系私立校に通う息子も小3に。私も3年目になると、突っ込みどころ満載の学校のシステムに私も身を任せるようになってきました。さて、嫌々行っていた幼稚園と打って変わって、小学生になると楽しく学校に行き始めた息子。最大の理由はほかでもない「買い食いができる」から。タイの私立校には幼稚園から生徒が自由に買い食いできる子供の味方、「校内売店」が存在します。日本の公立校で育った私には子供にお金を持たせることにも、買い食いさせることもかなり抵抗があり、幼稚園時にはいっさいお金を持たせませんでした。しかし小学校に上がり、休み時間、放課後とショッピングを楽しむ友達がいる中、やはり息子にもお小遣いを持たせないわけにはいきません。そこで悩ましいのは毎日のお小遣いの金額。お小遣いの額は

それぞれの家庭次第。上を見ればきりがなく、そして金額の差や友達同士の貸し借り等で問題が勃発することもあるようで。そんな中、今後の値上げ交渉をも見越して我が家は、小学生としては最低額であろう20バーツ（約70円）からスタート。小3の現在は40バーツ（約140円）に。学校の売店は基本チャージ式プリペイドカード払いで、学生証＝プリペイドカードとなっており、学生証と現金を学校のチャージ窓口を持っていくと学生証にチャージされる仕組みです。さて、子供が言うことを聞かず、罰としてお小遣いなし！というのは世の常。お小遣いなしで学校に行かせたある日のこと。帰宅した息子から「今日先生が30バーツくれた」と聞いてびっくり！詳しく聞いてみると、

この日は校内イベントで特別な屋台が出ていたが「今日はお母さんに怒られてお小遣いがないんだ！」と友達と話していたところ、それを聞いた先生が屋台で買うお菓子代をくれたのだとか…。次の日お金を返しに先生に会ったところ「せっかく屋台が出てるんですから、お金を持たせてあげてください」と言われてしまいました。またある時は、授業で使う材料を売店で買うよう先生に言われたが、お金がなく困っていたら先生がお金を貸してくれたことも。日本と違い、授業で使う道具や材料は子供たちが自分で学校の売店で買わなければならないシステムでもあり、結局はお小遣いなくして学校生活は成り立たないわけ…。
「罰としてお小遣いなし！」という切り札が一切使えない何とも困った社会です。（大畑）

あなたのお住まいの地域事情

教えてちょーだい!



トコロ変われば
ザ★談会

第1回

プラスチックごみ問題について!

は〜い!
私たちがお答えしま〜す!



大畑美優紀
(在タイ113年目)



原理恵
(在東京7か月)



知念(高田)知佳
(在インドネシア3年目)

Q1. あなたの住む地域ではどんな取り組みが見られますか?

私の勤務先では、売店のストローがプラスチック製から紙製へ。社内売店の前にはレンタル用エコバッグが用意され、給料日に開かれる定期市でもビニール袋が支給されず、マイエコバック使用を奨励中です。社外では、テイクアウトの際に使用されていた発泡スチロール製容器が紙製に変更している飲食店も多く見かけるようになりました。大手コーヒーショップなどではマイカップを持参すると5バーツ(約15円)安くなるなどエコ活動にもお財布にも一役買う試みも見受けられるようになりました。



昔はビニール袋にストローのコーラ、タイではメジャーでしたよね。。

東京生活半年強過ぎて一番印象的なのはスーパーで買い物の際にレジ袋が有料なことです。確か3円/枚。エコバッグを忘れると、しまった!となります。また、あたり前ですがゴミ回収日が決まっているので買い物行く日や料理をする日を計画的に予定するようになったかもしれません。

インドネシアは世界第2位のプラスチックごみ排出国だそう、レジ袋の有料化など、国の取り組みも始まりました。スーパーやショッピングモールではエコバッグの販売もよく見かけるようになりました。プラスチックのストローを使わず、グラスや紙コップで直飲みする飲食店も増えてきましたよ。環境に優しい海藻ストローの開発も進んでいるみたいです。興味深いですね!



Q2. 一般市民の意識はいかに?

やはり一般のスーパーではエコバッグが売られてはいるものの、ほとんど使用している人は見られません。お店でもビニール袋は変わらず大盤振る舞いに支給されていて、ビニール袋が有料というお店は見かけませので、自ら積極的にエコバックを持参する人はほぼゼロに近い状況。一般市民のプラスチックゴミ問題に対する意識はまだ低いです。



コンビニやお店によってはまだ袋有料ではないです。意識しないと減らないですね。ちょっと話しますが、日本で生用品購入時の過剰包装は要らないですよ。いつも断ります。

残念なことです、時々近所の川にゴミを捨てている人を見かけます。家庭ゴミの分別もそこまで厳しく取り締まっています。また、食べ物の持ち帰り文化が定着しているため、プラスチックをたくさん使った包装が当たり前になっています。環境問題への意識は少しずつ高まって来ていると思いますがより多くの人たちに浸透させていくことが今後の課題だと思いますね。

なるほど! お店でのエコバック推進は各国共通ですね! また、東南アジアの食べ物持ち帰り文化が気味を減らせない要因になっているのは否めませんね。でも、利便性を保ちながら包装やプラスチック容器を減らすお店の試みも広がっている様子。企業努力に理解を示す一般市民が加われば、よりプラスチックごみ問題も改善に向かうのでは? 今後は市民意識の変化にも注目ですね!

第四回

ともに感じる東南アジア

ラオスおよびタイ東北部は昆虫食が盛ん。
カメムシだっておいしくいただきます!

田邊 知成
(国文95,院・国文00)

ラオス中南部 サワンナケート県にて撮影



東南アジアの現状、想いを共に発信していく仲間(国際学部・院同窓生)を募集しています!

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていききたい同窓生(通称ファンクラブ)の皆様など、興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係 大畑(miyukiohata@gmail.com)までご連絡ください。

数多くの同窓生からの声をお待ちしています!

